

## 無量のいのちが 無数のいのちを

たしかに支えている

私たちは、愛する者が怪我や病気で苦しんでいたらどうするでしょう。  
よ。

その愛する者の苦しみを代わってあげたい、何とかして苦しみを  
取り除いてあげたいと思うものです。

ましてや、愛する者の命が懸かっている場合には、その思いはな  
おさらです。

これは、愛する者の苦しみを、そのまま自分の苦しみとして同感  
することによって、その苦しみをどうにかして助けてあげたいとい  
う思いが出てくるからです。

しかしながら、私たちにはそのような場合に際して、どれほど愛  
する者の命であっても如何ともできないのが、また現実です。

生まれた命は、必ず死んで行かねばならない命です。これは、生  
きとし生きる全てのものの命の在り様です。

そして、その命の行き先も私たちには分からず、結局は苦しみの  
中に死んでいくしかない命となります。

その死んで行かなければならない私たちの命を、我が命として引

き受けて支えて下さっている仏様が、「無量のいのち」をお持ちの阿  
弥陀仏なのです。

「無量のいのち」は阿弥陀仏のお働きの姿です。

阿弥陀仏の「阿弥陀」は、サンスクリット語の「アミターユス」  
という言葉から由来した、「無量の寿命」という意味があります。

この意味から、阿弥陀仏を「無量寿仏」ともお呼びします。

全ての生きとし生きるものの命を、我が命として引き受け支えて、  
苦しみの中に死んでいく命では終わらせません。阿弥陀仏と同じ「無  
量のいのち」を与えずにはおかないと常に働いて下さっています。



石 行 灯 台 五 小 命